2022年度 シラバス 日本工学院専門学校

2022年度 日本工学院専門学校

デザイン科/インテリアデザイン専攻

総合実習2

対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	蓮尾 哲也 / 松浦 泰明			実務 経験	有	職種	カメラマン / デザイナー				

担当教員紹介

蓮尾:フォトグラファーとして、撮影からphotoshopを使ったレタッチ&合成などを駆使して広告写真制作をしております。

松浦:2013年 金沢美術工芸大学 製品デザイン専攻卒業。

2021年までキヤノン株式会社にてレンズ交換式カメラのプロダクトデザインに従事。グッドデザイン賞、iFデザイン賞、IDEA賞、

アジアデザイン賞、JIDA DESIGN MUSEUM SELECTION GOLD、コクヨデザインアワード2021優秀賞 等受賞。

授業概要

この科目は、平面と立体の双方のトレーニングを通して、インテリアデザインに必要な基礎スキルを向上させる授業である。 平面系:Photoshop の基本的な操作方法を再確認して、さらに正確に深く理解することを目的とする。また、一眼レフカメラの取り扱い方法を学び、 模型撮影や空間撮影の撮り方を習得する。それらが空間提案に必要な技法となり、よりリアルな表現ができるようにレベルを上げる。 立体系:立体物のデザインを通して、コンセプトをかたちにしていく一連のデザインプロセスを経験する授業である。

到達目標

平面系: Adobe Photoshop を用いて、デザイン作業に必要な応用力がつく。模型や空間の撮影方法を習得することができる。応用的な画像編集の知識・技術の理解を深めることができる。課題内容を理解し、自分で発案・提案を行い、他者に意図を伝えれる制作ができる。 立体系: 立体物のデザインを通して、今後のデザイン業務の基礎となる立体造形スキルを養うことを目標とする。

授業方法

平面系:Photoshopの基本的な操作方法を学びながら、講師と一緒に画像処理をしていく。操作を理解した上で例題を自ら考えて作成していく。 Photoshopの操作を深く理解し、自分の発送をどのようにしたら、表現できるようになるのかを学んでいく。撮影の授業では一眼レフの操作を学び、 自らライティングをして、表現出来るようになる。 立体系:講師のデモンストレーションから学びを深め、学生自身が段階的にデザインのプロセスを体験する。グループワークやモデル制作など、手や

身体を動かしながらデザインに取り組む実習型の授業を行う。

成績評価方法

20% 制作物の発表方法 内容について評価する 課題完成度 40% 提出完成度を総合的に評価する 20% 制作準備と仮定を評価する 平常点 20% 積極的な授業参加、授業態度によって評価する

履修上の注意

授業に出席するだけでなく、制作にあたっては各自で授業の事前準備と事後のフォローを前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。ただ し、授業時数の4分の3以上出席しない者は課題提出とプレゼンテーションの実施ならびに評価を受けることができない。

教科書教材

必要な際は、授業前にプリント等を配布する

回数	授業計	画
第1回	平面系: Photoshopの概要、操作画面や各種パネルを理解する デジタ	レ画像の基礎知識
第2回	平面系: Photoshop基礎① 画像の明るさ、色味	
第3回	平面系: Photoshop基礎② コピー・スタンプ等 画像修正	
第4回	平面系: Photoshop基礎③ 選択範囲を理解する	
第5回	平面系: Photoshop基礎④ レイヤーを理解する	

2022年度 シラパス 日本工学院専門学校

2022年度	日本工学院専門学校
デザイン科	・/インテリアデザイン専攻
総合実習 2	
第6回	平面系:Photoshop基礎⑤ グラデーションツール
第7回	平面系:Photoshop基礎⑥ マスクと切り抜き / 立体系:課題説明・オブザベーション
第8回	平面系:作品制作1-1 / 立体系:アイデアディブロップメント
第9回	平面系:作品制作1-2 / 立体系:ラフモデル制作
第10回	平面系:作品発表プレゼン / 立体系:中間チェック
第11回	平面系:一眼レフ講座 / 立体系:最終モデル制作
第12回	平面系:撮影方法 指導 / 立体系:最終モデル制作
第13回	平面系:作品制作2-1 / 立体系:最終モデル制作
第14回	平面系:作品制作2-2 / 立体系:プレゼンテーション準備
第15回	平面系:作品発表プレゼン 総評まとめ / 立体系:最終プレゼンテーション、講評